

宇宙とは命とは完全法則

なぜ、一転生、人生を歩むのに悩んだり苦しんだり。
それは、宇宙あるいは命という法則を見失っている
結果であることを知ってもらいたい。

なぜ同じこの世を生きていながら、皆さんの人生は
...

悩んだり苦しんだり、不調和の人生を歩みます。
(私は)一秒悩んだことないといいます。苦しんだ
ことないといいます。

じゃあ、その差はどこにあるのか。

私は法則を知っているだけ。

皆さんが正しく法則のとおり生きることができるな
らば、この人生に苦しいことなんて一点もないん
です。

いつも光話で説いているように、人生とは道とい
います。

道とは人生といいます。

で、その人生とは法則であること。

簡単にいうならば、ミカンの種を蒔いてリンゴを取
穫したい。リンゴの種を蒔いてミカンを取穫したい。
不可能といいます。

ミカンを取穫したいならばミカンの種。リンゴを取
穫したいならばリンゴの種。

じゃあ、それをちょっとレベルを上げてみてくださ
い。

喜び、幸せ、至福であるためには、その種を蒔くこ
とです。

あるいは、悩み、苦しみ、不調和で生きたいならば、
その種を蒔くことです。

喜び、幸せ、至福は、愛の果実なんです。

その逆が、悩み、苦しみ、不調和なんです。

皆さんも幸せでありたいならば、幸せの種を蒔くこ
とです。

で、その幸せは、すべてを幸せ、すべてを喜びにす
ることです。

この法則は一点の狂いもないんです。

もし、神仏の法則が狂った法則であるならば、我々

はこの世界に生きる価値なんてないです。

最近起こる事故を見ても、あるいはニュースで事件を見ても、偶然、偶然、偶然で片付ける人間がいます。もし偶然で片付けられるならば、もう宇宙の法則は命の法則は完全ではないんです。神仏の法則は完全ではないんです。

一瞬一瞬この世界に、あるいは宇宙に、あるべきことが起こっているだけ。

皆さん、今日、私は不必要な人間と会いました。私に不必要な事件が、不必要な事故が起きました。

この世界に誰が生きたいと思いませんか。

法則は完全に働いているがゆえに、我々はここまで生きることができたことを知らねばなりません。

偶然なるものはありません。

もちろん、今の皆さんのカルマの解消の仕方は、殺したから殺される。殺されたから殺し返す。

私はそういう状態の解消、あるいは刈り取りを望んでいるではありません。

なぜ今の人間は、過去、幾転生で殺したから殺される。殺されたから殺し返すという、このような解消、このような刈り取り方をしているのか。

それは、真理という宇宙法則に、命という法則に、無智、無能、盲目で生きている結果なんです。

2

40年ともに学んだ（方の）なかには、本来は殺すべきカルマを背負っていた者もいたでしょう。あるいは殺されるというカルマを背負っていた者もいるでしょう。

じゃあ、なぜ一点の傷つけることもなく、傷つけられることもなく、解消されているのか。

これがいつも私の説いている、

真理は我を自由ならしめん。

真理はすべてを自由ならしめん。

で、その逆は、

真理を知らぬが最大の罪である、というんです。

真理を知らぬが最大の無智である、というんです。

だから、私が今テレビのニュースで見て、さまざまな起こる事件や事故なんて、本当に家族の者が誰か一人でも真理を理解する者がいるならば解消されているものがいっぱいあるんです。

皆さんは、この結果というこの仮相世界で生きているがゆえに（ホワイトボートの絵を指して）この範囲しか理解できない。この範囲しか見ることができない。それを超えて見ることができないゆえに皆さん

ん苦しいんです。

しかし、本質は無限です。

無限の世界からこの世界を眺めてください。

いつも起こる一瞬一瞬その起こるすべてが、偶然ではないことを知ります。

もちろん、私は殺したから殺される、殺されたから殺し返すという刈り取り方を奨励しているのではありません。

真理という本質をもって、正しく美しく皆さんは顕現できるあなた方であってほしい。

我々は、悩み、苦しみ、不調和で生きるために肉体衣装をまとったのではありません。

肉体存在の目的さえも知らない。

何のために、今、一瞬一瞬を生かされているのかも知らない。

いつも説いていることは、人生とは道そのもの。で、道とは人生。

80億の人間が、この人生という道も歩んでいけば、さまざまな問題にもぶつかります。

その問題は、試練であってみたり、宿題であってみたり、障害であってみたり。

で、自分自身の内側から疑問も湧いてきます。

じゃあ、ぶつかる問題に、湧いて出てくる疑問に、皆さんが一点の狂いもない正しい答えを引き出すことができるならば、世界の人間、苦しみ生きる人間は一人もいません。

ただ生きているから生きてる。

ただまわりの者が食して生きるから生きる。

このように無智の人生、盲目の人生、迷いの人生を歩んでいるがゆえに苦しいんです。

今日、私が朝、明想で観たことです。

私は皆さんに常に「根源に融合するためには、本質に融合するためには、思い・言葉・表現の三行為、身口意を正し生きるとともに、明想という正しい手段、方法で根源に融合（できる）」といつも説いています。

で、本質の世界からこの世界を眺めています。

で、皆さんは、言葉で相手を非難、言葉で相手に怒りや嫉妬やその憎しみを向けていなければいい、と思っているんです。

“思いそのもの”で、自らを汚している人間のなんて多いことか。

今日、はっきり言いますよ。

これはもう本来は80億ですけれども「100」とたとえているんです。100と。

100たとえて、身口意が完璧に正されている者はゼロ。ゼロですよ。

言葉で、相手に非難や批判や怒りを、あるいは嫉妬を向けていなければ自分は正しいと思っているの。

人間というのは、たとえば元子さんに「バカ」って言葉で言われても、それを簡単に流せる人間もいます。それに汚れない人間もいます。

しかし、それに反応し、怒り狂う人間もいます。

じゃあ、それを流せる人間、その「バカ」と言われた言葉を気にしない人間。そういう者ならば自分は汚れていないか？

汚れているんです。

それはちょうど、人間は反応したり、反応しなかったり、いろんなタイプがいます。その「バカ」という一言に。

まわりに花々が活けられています。

4 (花々は)言葉でなくても、思いそのものに、もう即反応しているんです。悲しみや、泣き、笑いを表現することを知らねばなりません。

だから皆さんは、たとえば元子さんから「バカ」と言われて、私は傷つきません。私は本質を知っていますから。

あるいはまた本質を知っていなくても、そのような言葉を流せる人間もいます。簡単に。

で、またそれに怒り狂う人間もいます。

じゃあ、私がその「バカ」という言葉に汚れなかったからとて、あるいは誰彼はその言葉を流せたからとて、それはもう自分自身をくもらせてないのか？完璧にくもっています。汚れています。

だから皆さん要注意というんです。

100名いて、一人だって身口意が正されているのは、ゼロですよ。

皆さんはあたかも言葉だけで、行為だけで、自分を汚していると思っているんです。

その“思い”というものを徹底して皆さんは理解してもらいたい。

すべてのすべてののはじまりは“思い”なんですよ。

だからいつも言うんです。

たとえば私がきれいな女性と、容姿の美しい女性とすれ違いました。

「美しい、きれい」はいい。しかし「一度この女性と寝てみたい」。それはもう行為をおかしていることと何も違うことがないことを常に常に説いています。

なぜならば、この宇宙は、地球は、すべて命という根源なる思いが具現した世界なんですよ。

その意識という思いそのものがなかったならば、宇宙は地球は人間、動物、鉱物、植物、微生物は、何にも創造はされていないんです。

だからこそ“思いは実現”というんです。

「バカ」と言葉には出さなかった。だから皆さん汚れていないと思っています。

大きな勘違い、大きな間違い。

私は何の宗教も学んでいません。

イエス・キリストは「『たかが子守り女ではないか』という言葉で、もうその者は想像もできない汚れを背負った」ということを訴えているのを知らねばなりません。

常に余計なことを思うよりも、常に「神よ、神よ、神よ。わが内なる神よ」。それを皆さんが思っているならば汚れることもないのに。

なんて思いで……いちばん言葉よりも“思い”で汚しているんです。

40年、よく耳に聞いてきた言葉。特にそれは女性から聞きました。そういう言葉は。

「私は心はきれいだけど言葉が悪いんですよ。心は美しいけど言葉が悪いんですよ」。

心清き者が、思いに、言葉に、表現に、一点でも汚れが出るはずがない。

知らずしておかす罪

知っておかす罪

だから、皆さん自身が明想、明想、明想であがいて根源を感じたい、見たい、そこに入りたい……今の状態では不可能といいます。

もうこの今の今のこの2019年、ここにきて厳しく説きますよ。

もうそれを正しきれなければ、学んだだけに皆さんの汚れは、何倍、何十倍、何百倍と背負うということを知らねばなりません。

「知らずしておかす罪は軽い。知っておかす罪はなお重い」ということを知らねばなりません。

だから、それ以上苦しみたくなければ、もうさっさと今ここを去ることです。

「自分を正す」という、この意志と忍耐と勇気と努力をもってして、完璧に自分の我が克服できぬというならば。

どうしてどうしてどうして今の状態で根源の世界に、どんなに肉体が朽ち果てるまで目を閉じて明想したって不可能です。

まず正すべきものが正されていないんだから。

一点のくもり、汚れでも、根源の世界に融合できぬと私は説いてますよ、いつも。

これはあなた方が「私は入れるだろう、肉体去って根源の世界に入れるだろう」。そういうのを皆さん自身に落胆させない思いで、私は厳しく説いているんです。

誰が自信をもって今、根源の世界に帰ることができましょうか。

くもりなき一点の汚れなき者のみが、明想という正しい手段で根源の世界に融合ができるということを知ってもらいたい。

さまざまな言葉を流せる者もいれば、汚れない人間もいます。

しかし、花々はそれそのものをすべて見抜くんです。人間意識・肉体意識・個人意識という偽我そのもので、どうしてどうして根源の世界へ融合ができましょうか。

肉体意識を超越してこそ、そこに完全法則がみえてくることを知ってもらいたい。

宇宙そのものは、命として神仏として完全な法則であることを知らねばなりません。

誰の責任で根源の世界に融合できないのか？

誰の責任で、悩んだり、苦しんだり、不調和の人生を歩んでいるのか？

一点でも誰彼のせいではないんです。

すべて自分自身の責任で苦しみがいていることを知ってもらいたい。

そのように、根源から分離して、あたかもその^{いち}なるこの肉体が我という錯覚で生きている人間を「障害」というんです。

皆さんはよく寝たきりで生活している者、あるいは車椅子で生活している者、障がい児とか障がい者といえます。

本質の世界を見失って生きてる人間を障がい者というんです。

本質は命なんです。

命を我として、命をすべてとして見失って生きている人間を障がい者というんです。

思いで言葉で表現で、相手を傷つけ、自らを苦しめている人間を障がい者というんです。

寝たきりで生活していても、車椅子で生活していても、絶対自分を汚してない人間も、あるいは相手を傷つけない人間もいることを知らねばなりません。

じゃあ、なぜそのように体が不自由な状態で生まれ出てくるのか。

それも偶然ではないんです。

我々は、いつも肉体衣装をまとってこの世界に下りてくるときは誰も言います。

「今生こそは身口意^{しんくうい}を正し生きて、今生こそは根源との一体感、融合してまいります。」

これは神（真）我一体の境地です。

しかし我々は、思いで言葉で表現で、見えるがゆえに、聞くことができるゆえに、語るすることができるゆえに、

皆さんは「今生こそはすべてを浄化してきます、すべてを刈り取ってきます」どころか、「10」のカルマを背負っていた者が、20、30、40、50と、あるいは何百と、また汚して帰る人間がほとんどなんです。

この状態で我々は、何百、何千、何万回という転生を繰り返してきているんです。

だからこそ皆さんの前に、見ざる（猿）、言わざる（猿）、聞かざる（猿）、思わざる（猿）が飾られているんです。

思わざるは、正しく思う。

見ざるは、正しく見る。

言わざるは、正しく語る。

聞かざるは、正しく聞く。

「身口意^{しんくうい}」だったんです。

で、今生こそは、と肉体という衣装をまとってしまえば、見えるがゆえに、また相手の悪いところしか見ない。で、見ることに於いて自分をまた汚し、くもらせていきます。

で、「口」は語るすることができるゆえに、相手を非難したり、相手に怒りを向けたり、相手を罵ったり。それでまたきれいにするどころか、また汚し、またくもらせていくんです。

で、「聞く」もそのとおり。

そのときに勇気ある子どもたちは、「見ざる」「言わ

ざる」「聞かざる」「思わざる」、それが完璧に正すことができずして、「10」の汚れにまた20も30も50も上乘せして帰るゆえに「よし、今生こそ見えなければ見る罪をおかさない」「語れなければ言葉の罪をおかすことはない」「聞けなければ、悪い言葉や悪い波動に反応して汚すこともない」。あるいは「体が自由に動かなければ、相手を傷つけることも破壊することもない」。

それで、あえて目を閉じ……それはそのひとりひとりにみんな違います。

あまりにも見ることで自分を汚してきた者は、今生こそは見えなければ、見る罪をおかさない。

で、話せなければ、言葉の罪をおかすことはない。聞けなければ、それに反応して、汚し、くもらすことはない。

それで、見えない状態で、聞けない状態で、話せない状態で、動けない状態で、自らそれでもって「何百、何千、何万回という転生のすべての汚れを克服します」という方々もいることを知らねばなりません。

8

だから、肉体がそのような不自由な状態で生まれ出てくる子どもたちは、非常に勇気ある子どもたちなんです。「今生こそは」って。

まわりから今生どう見られたって、汚れることのない状態で出てくるんです。

だから、お父さん、お母さんは、その子どもたちを絶対に肉体的な面を見て育てていってはなりません。

常に本質なる命を、完全という思いで、完全という見方で、完全という行為で育ていかねばなりません。逆にこのような子どもたちを預かっているお父さん、お母さんは、何も落胆すべきではありません。胸を張って自信もってその子どもたちを育ててほしい。

これは私が…私は今生、このような肉体的な不調和の子どもは預かっていません。

しかし、そのような子どもを預かっているお父さん、お母さんたちは、非常に意味が理解できずして「なぜ偶然に我々の家庭になぜこういう子が生まれたのか？」で、苦しんでいる家族がいっぱいいたんです。そういう不自由な体をもっている子どものお父さん、お母さんのグループが、何十グループがあったんです。

それは沖縄です。

その方たちは、障がい者・障がい児を預かっていませんから「障がい者について講演をしてほしい」と私にお願いされました。

しかし、味わってないものを皆さんに説くということは、私は嘘つきなんです。

だから、そういうグループの方々から何回も何十回もお願いされたんだけど、私はいつも断り続けました。

私は今生、体の不自由な子は預かってない。

だから体験がない。語れるはずがない。

常に断っていたんです。味わってないものを味わったふりで皆さんの前に説くならば、私は嘘つき。嘘ついたカルマを背負います。

だから、常に常に断りとおしました。

しかし、あまりにも泣いてすがられて、とうとう私はもう承諾しました。

しかし、私はそういう子どもを預かって体験もないのに「どう語ればいいのかろう…」と夜中、明想中にそういう思いをもって座っていました。

手に取るように内在の神が私に教えてくれたんです。

「何も心配するな。味わっている状態で、私があなただを体験のなかでその教えを説いてあげましょう」で、私は導かれたんです。

だから、今生こそは言葉の罪をおかさずといたって言葉の罪。

今生こそ思いの罪をおかさぬといたって思いの罪。

で、見る罪、聞く罪、あるいは動けるゆえに傷ついたり相手を破壊したり。

誰も「今生こそ、それを超越します」で生まれてくるんです。

「今生こそ、それをすべてを刈り取りします」で生まれてくるんです。

しかし、見えるがゆえに見る罪。

話すことができるゆえに言葉の罪。

聞くことができるゆえに聞く罪。

手足も自由に動くがゆえに、また相手を傷つけたり、相手を殺したり、またそれそのもの。

で、勇気ある子どもたちは、よし今生、目を閉じていれば、見る罪をおかすことはない。

で、口が語れなければ、言葉の罪をおかすこともない。

で、聞くことができなければ、聞く罪をおかすことはない。で、手足を動かすことができなければ、相

手を刃物で傷つけることもなければ、殺すこともない。

今生の一転生という人生をその状態で、耐えて耐えて耐え抜いて、今までのすべての汚した汚れ、くもらせたくもり、すべてを刈り取ってきます、と生まれてくる子どもたちがいるということを知ってもらいたい。

その子どもたちこそ勇気ある子どもたちなんです。だから、そのような勇気ある子どもたちを預かっているお父さん、お母さんは、決して肩身の狭い思いで、この現象世界を歩いていく必要なんてないです。逆に、勇気をもって胸を張って、しっかりと前に進んでももらいたい。

体の不自由な子どもたちをそのグループにしている方々の前でそう光話したとき、お父さん、お母さんはその意味を知って泣いて喜ばれました。

今まで「なぜ我々の家庭にこういう子どもが生まれたんだろう」と、不平不満を言う者もいます。常に文句を言いながら生活をした者もいます。

しかし、もうすべての方々が解決しました。もう喜びに変わりました。

10

だから、皆さんも人生という意味が知らない。

人生とは道なんです。

道とは一点の狂いのない法則そのものなんです。

じゃあ、それが理解できるならば、我々はこの世を歩いていくのは容易いことなんです。悩むことなんて、不調和であることなんて、一点もないんです。いつも言うけど、私が死を追究したときは2歳というんです。

2歳にして、死んで人間はどこに帰るんだろう。死んで墓というけれど墓場から向こうはどういう世界が待っているんだろう。

自ら解決したがゆえに、私は死に対する恐怖もないんです。死に対する不安や苦しみもないんです。

まず私も、生老病死という四苦を解決しました。

命という本質には生老病死という四苦なんてないんです。

我、肉体なり（という）錯覚で生きているがゆえに、生老病死という四苦に皆さんは苦しむんです。

明日はどうなっていくんだろう。明日は世界はどう変わっていくんだろう。

なぜ？

この現象という結果の世界は、常に常に移り変わり

ます。

良い方向に変わるか、悪い方向に変わるか、常に常に移り変わっています。

だから、万物の霊長たる我々が、正しい美しい心で生きることができれば、地球は良い方向に変わります。

しかし分離感で、あの人、ゆるせない、あの人、憎い、あの人、嫌い、あの人、愛せない。分離感で人類が生きていけば、悪い方向に地球は変わっていくのは当然です。

だから、地球を美しい地球にするか、住みにくい今のように事件・事故の絶えない地球にするかは、すべて万物の霊長たる我々次第なんです。

良き地球にするか、悪き地球にするか。

すべて万物の霊長たる我々の生き方で背負っているんです。

我、肉体なり。そのような生き方であるかぎり…肉体は偽我の我、^{いつわ}偽りの我、と書きます。

なぜ、生老病死というニセモノがついていくのか。ニセモノの我を我として生きているかぎりは、ニセモノがついてまわって当たり前のことです。

11

私は「我、命なり」で、その命という本質を自覚で生きています。

じゃあ逆に「私に生老病死ついてこい」と言ったら、ついてくることができるでしょうか。

だからこそ、世界どこのセミナーに立たされても、自信をもって私は立てるというのはその意味なんです。

命を我として、私は生きています。

命を我として、私は自覚で生きています。

年老いていくこともない。死ぬこともない。病み苦しむこともない。

この一瞬、この一瞬一瞬であって、明日も昨日もないんです。だから心配や不安や恐怖もないんです。

皆さんは、明日はまだ来てもいないのに、明日の心配、不安、恐怖。

で、昨日は過ぎ去ったのに、昨日のことを…あの人、ゆるせない、憎い、嫌い。

どうして根源の世界に至りましょうか。

本質の世界は、過去にあらず、未来にあらず、なんです。

「過去、未来を思い悩むことなかれ」が本質なんです。

本質は、今、命として無限にして永遠にあるこの実在そのもの、これが本質なんです。

昨日を振り返って、皆さんがどうもがいたって…もちろん二度と同じ過ちをおかさないように皆さんはそれは自覚すべきです。

ここまで憎んで憎んで苦しみを味わったにもかかわらず、うらんでうらんで苦しみを味わったにもかかわらず、昨日まで、嫉妬でもがき苦しんだにもかかわらず、また今日も同じことを繰り返す……これ“鳥の脳みそ”といいます。鳥の脳みそであってはいけない。

しかし、過去・未来は、本質・真理ではないんです。皆さん、昨日おかした過ちを二度とおかさないように反省はできるけど、過去に振り返って、過去に戻って、それを消すことができるでしょうか。

過去の間違いを消すことができるのは、この一瞬というこの瞬間の実在を我として生きることなんです。

12

これがすべてのすべてを解決する方法なんです。

過去にどんな最悪なカルマを背負っていても、過去にどんな邪悪なカルマを背負っていても、何と云いましょうか。

「我を明想する者にカルマなし」と説いていますよ。「我を明想する者にカルマなし」とは、我が命である者に、我が本質である者に…。

だから、Pさんが今まで良い明想ができなかった理由は、常に常に過去を振り返ってもうごたごた。「過去はああだった、こうだった」。今ちょっとはマシかな（笑）。

どうしてどうして、それで根源の世界に至ろうとすることそのものがもう不可能なんです。

過去・未来が本質・真理であるならば、そんなことは説きません。「徹底して過去を反省せよ」と言います。

じゃあ、過去を無駄な時間で反省、反省、反省、反省の執着で、反省の繰り返して、今の正しい生き方を見失って、どこに至りましょうか。

過去が問題ではない。未来が問題ではない。

正しく美しく生きることにおいて、未来は築かれていくんです。築いていくんです。

だから、人類がこれからどう歩いていくかによって、地球が決まっていくんです。

我、肉体にあらず。

肉体は偽我であるにしかすぎません。

もちろん、無形・無双の本質を表現するための大切な道具とはいいます。

しかし、道具があなた方ではないんです。

道具はあくまでも一転生、人生行路を旅するための一時いつときの乗船なんです。

もちろん、この乗船が正しく美しく顕現していくかは、この道具の在り方です。

しかし、道具があなた方ではないんです。

久遠くおんにして常在、不滅にして実在である本質そのものがあなた方なんです。

その本質は、完全意識であるとともに神仏なんです。

だから、この前の台湾のセミナーであま尼さんたちは、神仏、神仏、と言うけど、宗教と言うけど、宗教とは、何かを奉って偶像崇拜することではなく、すべての教え、全体の教え、宇宙の教え、無限の教えとして受け止めて、それを正しく美しく日々の生活のなかに顕現することが宗教と説いたんです。

何もカタチつくった仏像を盲信・狂信、偶像崇拜することが宗教ではないんです。これが真理ではないんです。

何万転生という転生を、その神仏を追求し、今生も何十年も神仏を追求したときに、神は長々と私に教えを説くかと思いました。長々とそのメッセージやインスピレーションを与えるかと思いました。

ただ二言。

「私でありなさい」。

じゃあ、神が私というのは何を意味して私なのか？本質なんです。で、命なんです。

つまり不死不滅、永遠の命でありなさい、なんです。

「私でありなさい」。

で、二言目が「私を生きよ」なんです。

「私を生きよ」とは、不死不滅、永遠の命を自覚しなさい、なんです。自覚して生きよ、なんです。

じゃあ「我、命なり」と自覚している者が、誰を不愉快な思い、誰を傷つけ、誰を破壊することがありましょうか。

命においてはすべてが我であることを知っているんです。

我はすべてであり、すべて我なり。

我は全体であり、全体、我なり。

今日も朝、明想終わって友だちが送ってくれた聖人の説いたテープでしょうね。このテープを流して聞いておりました。

今まで私が40年説いてきたことを寸分も変わらぬそれを、すべて講話で出されているんです。

たとえば、過去、幾転生で、何万転生で、最悪なカルマを背負っていても、邪悪なカルマを背負っていても、

我を明想する者にカルマなし。

それも全く同じです。

だから、もちろん昨日までおかした間違いを、二度と今日におかさぬように、この努力はいい。

しかし、皆さんがどうもがいたって、昨日に戻って昨日に入り込んでそれを解決することは不可能です。

今のこの生かされている一瞬一瞬という実在を、神仏として正しく美しく生きることにおいて、すべては解決されていくこと。

14

じゃあ、たとえば何万回という転生というなかで、皆さんが「10」の汚れを背負ってきたとします。

その10の反省して、それを消すためには、また何十万回という転生を繰り返さねばならぬ、ということなんです。

だから、神は、神仏は「我を明想する者にカルマなし」というその素晴らしい方法を皆さんに与えたんです。

我を明想する者とは、我を命として本質として自覚で生きる者、ということなんです。

「明想」とは、本質そのものであることが明想ではないでしょうか。

だから、何十年もむずかしい神を追求し、むずかしい仏を追求してきたんだけど、ただ言われたことは二言。

「私でありなさい」。

私とは誰なのか？

私とは本質なんです。

私とは命なんです。

私とは神仏なんです。

それを、私でありなさい。

で、二言目は「私を生きよ」。

というならば、これを日々の生活のなかに顕現せよ、
なんです。私であるならば、一点の思いで、相手を
傷つけることも、不愉快な思いをさせることも、苦
しめることもありません。

だから、あなた方が何十年も何十年も学びながら、
常に思いで、言葉で、表現で、相手に不愉快な思い
をさせたり、相手を傷つけたり、相手を苦しめるが
ゆえに、根源の世界にはほど遠いんです。

だから皆さんは一步まず立ち止まって「神仏ならば
元子さんに、あるいはPさんに、あるいはSさんに、
こういう思いをもつだろうか？」って思うことです。
しかし、皆さんは悪いものにはストップがかかるの
に、良いものにはストップかけきれない。

暴走族で突き進むんです。すぐ。

相手が不愉快な思いをしようが、傷つこうが、苦し
もうが、即、そのような思いに皆さんブレーキをか
けることができない。

身口意を正すための努力

15

私はこれさえも体験してきたんですよ。それは徹底
してやり抜いてきたんです。

1日から31日のカレンダーを置いて、今日の24
時間の、まあ、もちろんすべてのすべてを記憶はで
きません。

私は特にまたこの記憶力というのは苦手でしたか
ら。

もう朝光話したものはタイトルどうだったのか？
昼はわからない。昼、光話したものは、どのタイト
ルでどう光話したのか？ また夜はわからない。そ
れほど記憶は苦手なんです。

だから、完璧に振り返ってみたではないけど、
今日の1日24時間において、絶対に相手に不愉快
な思い、不愉快な言葉遣い、不愉快な表現をしなかつ
たのか？あるいは傷つけることはなかったか？ 苦
しめることはなかったか？

で、全く身口意のどこかにできていなければ ×^{かける}で
すよ。

ちょっといいなあ、と思うならば △^{さんかく}。
絶対今日は完璧だったというならば ○^{まる}つける。

それを1日から31日まで。2、3年。

私はここまで努力しなかったわけではないですよ。
このように努力もしてきていますよ。

このように2、3年間続けたことがあるんです。
じゃあ、2、3年で、私がこのように努力してきたことを自慢ではないけれど、皆さんにこのように努力したことを見てもらうために、そのカレンダーを置いておけばよかったのに。そしたら私がどう努力してきたかを知ることができたのに。全部捨てたことを、今、皆さんに見せたかったといいます。

で、この365日の3年。約3年。

ちょっと良かったという△さえもないです。○なんて不可能です。

365日の3年間、全部×です。

それほど徹底して私は自分を正すために努力をしてきたんです。

しかし皆さんの今の状態で、相手が見えないから、聞こえないからとて、その思いを粗末に扱うかぎり…。

常に皆さんは幸いなる者となってほしい。

心清き者よ、幸いなり。

それは、一点の思い、言葉、表現、身口意に対して、一点の汚れ、くもりのないことを意味するんです。

絶対愛を、絶対慈悲を意味しているんです。

じゃあ、皆さんは今、自信をもって「私は幸いなる者」と言える者がいるでしょうか。

心清き者よ、幸いなり。

だから、たとえ^{あま}尼さんであっても、お坊さんであっても、牧師であっても、本当の正しさ、正しいというその教えが理解できぬかぎり、今生、不可能です。これは何十年も宗教を学んでいる私の友だちや、また宗教を学ぶ皆さんの状態をみて、すべてを私は理解してきましたんです。

今の宗教を学んでいる方々に「なぜ無限という根源のなかに融合することができなかつたのか」をはっきり言えるんです。私は。

で、^{あま}尼さんたちの前でも、断言して私はそれを光話で説いてきました。今回。

今の宗教で学んでいるように「キリスト教はこうでないとダメ。仏教はああじゃないとダメ」。

束縛・制約・限定のなかに己を閉じ込めていて、どうしてどうして、どうして悟りの境地に至りましょうか。

すべての壁をぶち割ってこそ、観念・概念で描いたその宗教であり、その本質を、完全意識のなかにおいてこそ。

「キリスト教はこうでないとダメ、仏教はそうあるべきだ」。そのような壁に閉じ込められて、あるいは、束縛・制約・限定のなかに自らをおいて、どうして自由がありましょうか。どうして根源の世界に至ることができましょうか。

だから、今生、私は宗教という宗教を学ばなかったことを幸いに思います。

あの宗教ではこの宗教では、こうしちゃダメ、ああしちゃダメで……。

あなた方の魂は何百、何千、何万回という転生という転生をかけて、無限のなかに融合することを望んで、皆さんは何百、何千、何万回という転生を繰り返し返してきているんです。

だから今生こそ、観念・概念で描いた神仏……。

今回も^{あま}尼さんたちが5、6名、セミナー終わった後に私のところに駆け寄ってきて私に感謝しました。

私は感謝されるためではないですよ。

その感謝の内容は「もう今回、真実の成仏・昇天という意味を知っただけでも私は感謝します。で、喜びに思います」と言ったんです。

なぜならば「今回の私との出会いがなかったならば、もう今までのように観念・概念で描いた成仏、あるいは死んでいる人間の前で、そのお経の理解のできない者がお経を説いて……で、聞いたって理解できない者が聞いて成仏（する）と錯覚していたことを本当に。今生こそ正しい昇天・成仏を教わったことを嬉しく思う」と言ったんです。

すべての鎖を断ち切るために、真理という正しい法則を我々は学び、表現であることを知ってもらいたい。

だから、まずは常に真（神）我覚醒と私はいいます。真我覚醒とは、^{まこと}真の我に目覚める。神としての我に目覚める。

で、真（神）我顕現は、真の我を^{あらわ}顕し示す。神としての我を顕し示す、なんです。

神仏を顕現すること。真（神）我顕現といいます。で、神仏に目覚めることを、真（神）我覚醒といいます。

じゃあ、80億の人間が否定しようが、反対しようが、なぜ皆さんの前で命をかけて、断言して言い切ることができるのか。

味わっているからなんです。

細くて長い道

だから、もっと皆さんは思いを大事にしてほしい。
元子さんにこういう思い、で、こういう言葉遣い、
こういう表現をしようとするけど、本当にそれは神
仏の御心からして正しい思いなのか？ 正しい言葉
なのか？ 正しい表現なのか？ 徹底してその物差
しをもってもらいたい。

なぜならば、一旦吐き出したものは、もう二度と飲
み込めないんです。

出す前の修正はできるけど、出したものは飲み込め
ないんです。

皆さん、唾を吐きました。ああもったいない、皆さ
ん飲み込むことができるでしょうか？

不可能です。

だから、我々も一旦ここから放たれば、もうその
波動は必ずやあなた方に跳ね返ってくるんです。

18 今生、皆さんは本質の世界へ完全融合したいならば
……皆さんは自分には優しい、自分には寛容な心。

しかし、常に相手に向けて皆さん厳しかったこと。
本来は逆なんです。自分に厳しくなんです。他に寛
容な心、他に優しい心なんです。

常に自分に厳しくあってほしい。

自分に厳しく、他に寛容な心なんです。

しかし今まで我々は、常に自分に優しく、自分に寛
容な心、相手に厳しく、と説いてきたんです。

厳しさは自分に向けてほしい。

自信をもって、私は今生こそ根源の世界に帰れる、と
いうところまで磨いて磨き抜いてほしい。

これは私は皆さんを否定したり、非難するつもりで
言ってるのではありません。

私は実相という根源の世界を行き来できるがゆえ
に、行き来して、そこから皆さんに説いていること
を知らねばなりません。

我々は誰彼がどうでもない。

「自分自身がどうなのか」なんです。

自分自身が、一瞬一分一秒のどう皆さんが顕現して
いるかなんです。

誰彼をどうこうではなく、徹底して自分自身を見つ
め直してほしい。

今生こそともに帰りたいならば。

だから、根源の世界に至るのは簡単と思っているけど“細くて長い道”であることを知らねばなりません。

それを我々は完璧に乗り越えていかねばなりません。

今日も八ヶ岳のふもと、根源に帰りゆくために、皆さんとともに、ここで学べたことを心から嬉しく思います。

ありがとうございました。